



湧水町立 上場小学校

児童数 16人
学級数 5クラス



《テーマ》

自分と友達のをさを認め、ともに伸びようとする子どもの育成

研究に当たって（テーマ設定の理由）

本校は、完全複式の極小規模校のため、自分の思いを互いに伝え合うことができる環境にあるが、少人数のため互いに高め合ったり考えを深めたりする機会が少ない。また、各アンケート結果から自己肯定感があまり高くない実態がある。そこで、人権教育の取組を充実させることを通して、人権尊重の精神を基本に、児童の自尊感情をより高め、各々の人権課題への正しい理解と認識をもたせるとともに、チーム学校で人権意識の高揚を図りたいと考え、このテーマを設定した。

研究スケジュール

- 7月11日（月） 職員研修（学校現場や社会における子どもを取り巻く人権問題や人権尊重の視点に立った学校・学級づくりの在り方について）
- 12月6日（火） 人権教室（子どもの権利条約について）
- 1月13日（金） 家庭教育学級（子どもを取り巻く人権問題や子どもの人権、家庭の役割等について）

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ 人権意識を高める職員研修の実施

- ・ 県教育庁人権同和教育課指導主事を招いた研修会を行い、人権教育の視点から教育活動の工夫や集団づくりの在り方について理解を深め、授業や日常の実践に生かすことができた。
- ・ 人権同和教育研修で職員の課題意識を集約し、デジタル教材等、すぐに活用できる教材の確認をし、活用することができた。
- ・ 毎週水曜日の職員朝会後に、人権教育資料（陽だまり等）の読み合わせの時間を5分間設定し、常に人権を意識した教育活動が行えているか省みる機会となっている。



【職員研修】

□ 全校児童を対象とした人権教室の実施

- ・ 県教育庁人権同和教育課指導主事を招き、「子どもの権利条約」についての学習を通して、心がもやもやしたときの対処法や困っている友達への対応の仕方等、具体的に学ぶ機会となった。
- ・ 町人権擁護委員を講師に招き、上・下学年に分かれて身近にある「いじめ問題」や「人権とは何か」について発達段階に応じて考えを深める機会となった。



【人権教室】

□ 「いじめ問題を考える週間」「人権週間」の取組

- ・ 全児童がいじめや差別をなくす合言葉を考え、掲示する活動を通して、人権を尊重する意識の高揚と環境づくりに取り組んだ。
- ・ 6・12月に人権週間を設定し、学校長による人権に関する講話、人権や友達について考えることができる歌（今月の歌）の設定、道徳科や総合的な学習による授業を行い、人権意識を高めることができた。



【家庭教育学級】

□ 家庭教育学級講演会の実施

- ・ 家庭教育学級で「子育てに生かす人権教育」について演習を交えた講演会を行い、子どもが人権課題に直面した場合の支援の方法等学ぶ機会となった。

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの変容、よかったこと、今後やってみたいこと）

- 本校のテーマ「自分と友達のをさを認め、ともに伸びようとする子どもの育成」に沿った実践を通して、自分の思いを伝え合うことができる関係づくりに努め、「学校たのしいーと」の結果では、自己肯定感についての観点のポイントが上がった。(2.6→3.0)
- 家庭教育学級講演会では、保護者に対して、子育ての中で感じているストレスに共感しつつも、人権教育に配慮しながら子どもの自尊感情を育むポイントや、子どもを伸ばす言葉かけ等具体的に話していただき、家庭教育の充実につなげることができた。
- 職員研修では、教職員として意識しておくべき現状を図や表を用いて的確に話して下さったり、参加型学習の進め方について演習を取り入れて下さったりして、人権意識を高めることができた。
- 子どもの人権プロジェクト推進校としての取組は、児童だけでなく、職員・保護者がMomをもとに人権感覚を磨き、人権教育について学ぶ貴重な機会となった。そのことが、学校行事や児童会活動で自他を大切にしているように児童の姿に現れていた。今後も全教育活動で人権教育の充実を図り研鑽を積んでいきたい。